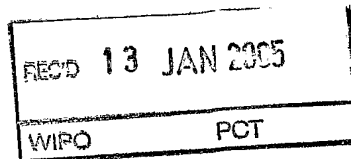


18.11.2004

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年11月21日  
Date of Application:

出願番号 特願2003-393019  
Application Number:  
[ST. 10/C]: [JP2003-393019]

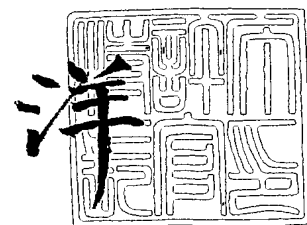
出願人 日本ゼオン株式会社  
Applicant(s):

**PRIORITY  
DOCUMENT**  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2004年12月24日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小川



【書類名】 特許願  
【整理番号】 20031124  
【提出日】 平成15年11月21日  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【国際特許分類】 G02F 1/1335  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内二丁目 6 番 1 号 日本ゼオン株式会社内  
    【氏名】 板谷 元宏  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内二丁目 6 番 1 号 日本ゼオン株式会社内  
    【氏名】 奥出 修平  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内二丁目 6 番 1 号 日本ゼオン株式会社内  
    【氏名】 山中 俊介  
【発明者】  
    【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内二丁目 6 番 1 号 日本ゼオン株式会社内  
    【氏名】 荒川 公平  
【特許出願人】  
    【識別番号】 000229117  
    【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内二丁目 6 番 1 号  
    【氏名又は名称】 日本ゼオン株式会社  
【代理人】  
    【識別番号】 100075351  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 内山 充  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 046983  
    【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 特許請求の範囲 1  
    【物件名】 明細書 1  
    【物件名】 図面 1  
    【物件名】 要約書 1  
    【包括委任状番号】 9717939

**【書類名】特許請求の範囲****【請求項 1】**

それぞれの透過軸がたがい略垂直の位置関係にある一対の偏光子の間に、少なくとも光学異方体及び液晶セルを有する液晶表示装置であって、光学異方体が固有複屈折値が負である材料層からなり、光学異方体の面内の遅相軸が近接する偏光子の透過軸と略平行又は略垂直の位置関係にあることを特徴とする液晶表示装置。

**【請求項 2】**

波長 550 nm の光で測定した光学異方体の面内の遅相軸方向の屈折率を  $n_x$ 、該遅相軸と面内で直交する方向の屈折率を  $n_y$ 、厚さ方向の屈折率を  $n_z$  としたとき、 $n_z > n_x > n_y$  である請求項 1 記載の液晶表示装置。

**【請求項 3】**

光学異方体が、液晶セルと入射側偏光子との間に配置されてなる請求項 1 又は 2 に記載の液晶表示装置。

**【請求項 4】**

光学異方体の面内の遅相軸が、電圧無印加状態の液晶セルの面内の遅相軸と略垂直の位置関係にある請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載の液晶表示装置。

**【請求項 5】**

光学異方体が、層の少なくとも片面に透明な樹脂を積層してなる請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載の液晶表示装置。

**【請求項 6】**

透明な樹脂が、脂環式構造を有する重合体樹脂である請求項 5 記載の液晶表示装置。

**【請求項 7】**

光学異方体の残留揮発成分含有量が、0.1 重量% 以下である請求項 1～6 のいずれか 1 項に記載の液晶表示装置。

**【請求項 8】**

液晶表示装置が、インプレーンスイッチングモードの液晶表示装置である請求項 1～7 のいずれか 1 項に記載の液晶表示装置。

【書類名】明細書

【発明の名称】液晶表示装置

【技術分野】

【0001】

本発明は、液晶表示装置に関する。さらに詳しくは、本発明は、正面方向からの画像特性を低下させることなく、画面を斜め方向から見たときのコントラストの低下を防止し、どの方向から見ても均質で高いコントラストを有する液晶表示装置に関する。

【背景技術】

【0002】

液晶表示装置は、高画質、薄型、軽量、低消費電力などの特徴をもち、テレビジョン、パーソナルコンピューター、カーナビゲーターなどに広く用いられている。液晶表示装置は、液晶セルの上下に透過軸が直交するように2枚の偏光子を配置し、液晶セルに電圧を印加することにより液晶分子の配向を変化させて、画面に画像を表示させる。ツイステッドネマチックモードの液晶表示装置では、電圧印加時に液晶分子が垂直配向状態となり、黒表示となる構成が多い。インプレーンスイッチングモードの液晶表示装置では、電圧無印加時に液晶分子が一定の方向に配向し、電圧印加時に配向方向が45°回転して、白表示となる構成が多い。

2枚の偏光子の透過軸が上下方向と左右方向を指して直交するように配置された液晶表示装置では、上下左右方向から画面を見ると、十分なコントラストが得られる。しかし、上下左右から外れた方向から画面を斜めに見ると、透過光が複屈折を生じて光が洩れるために、十分な黒が得られず、コントラストが低下してしまう。このために、液晶表示装置に光学補償手段を加えて、画面のコントラストの低下を防止する試みがなされている。

例えば、インプレーンスイッチングモードのアクティブマトリクス型液晶表示装置において、正面方向の特性を低下させることなく、方位角45°の方向から画面を斜めに見るときのコントラストの低下を防止する液晶表示装置として、第1偏光板、光学補償フィルム、第1基板、液晶層、第2基板、第2偏光板をこの順序で配置し、偏光板の一方が液晶層の黒表示時に液晶遅相軸に対して平行な透過軸を有し、光学補償フィルムが有するフィルム遅相軸と偏光板の一方が有する透過軸とが形成する角度が0~2°又は88~90°である液晶表示装置が提案されている（特許文献1）。

方位角による透過軸のズレを補償した偏光板を用いた視野角の広さに優れる液晶表示装置として、偏光子に位相差が190~320nmの複屈折性を示す封止フィルムを接着してなり、その封止フィルムの遅相軸が偏光子の吸収軸に対して平行に配置された偏光板を、液晶セルの少なくとも片側に配置してなる液晶表示装置が提案されている（特許文献2）。

また、クロスニコルに配置した偏光子間において、視角の変化により生じる偏光子の軸変化に基づく光漏れを広帯域の可視光域で防止して、広視野角の液晶表示装置を達成する偏光板として、偏光子の少なくとも片面に、面内位相差が190~320nmである2層の位相差フィルムを、各位相差フィルムの遅相軸が偏光子の吸収軸と平行関係となるように接着してなり、かつ面内の屈折率を $n_x$ 、 $n_y$ 、厚さ方向の屈折率を $n_z$ としたとき、2層の位相差フィルムが、 $N_z = (n_x - n_z) / (n_x - n_y)$ が0.65~0.85のものと0.15~0.35のものとを組合せからなる偏光板が提案されている（特許文献3）。

斜めからディスプレイを見た場合にも、角度変化による着色や画面の表示内容の消失がない液晶表示装置として、フィルムの法線方向を基準として周囲45°以内に少なくとも1本の光軸若しくは光線軸を有するか、又は、フィルムの法線方向の屈折率を $n_{TH}$ 、長手方向の屈折率を $n_{MD}$ 、幅方向の屈折率を $n_{TD}$ としたとき、 $n_{TH} - (n_{MD} + n_{TD}) / 2 > 0$ のいずれかであるフィルムと、正の固有複屈折値を有する一軸延伸フィルムとを、液晶セルと偏光板の間に挿入してなる液晶表示装置が提案されている（特許文献4）。

さらに、斜めからディスプレイを見た場合にも、角度変化による着色や画面の表示内容

の消失がない液晶表示装置として、ネマチック液晶を挟持した液晶素子を、正の固有複屈折値を有する一軸延伸フィルムと、負の固有複屈折値を有する一軸延伸フィルムで挟んだ液晶表示装置が提案されている（特許文献5）。

液晶の複屈折による位相差やその視角による変化に加えて、それらの特性の波長依存性等についても対処しうる豊富な位相差特性を有する位相差板として、面内の主屈折率を $n_x$ 、 $n_y$ 、厚さ方向の屈折率を $n_z$ としたとき、 $n_x > n_y > n_z$ 、 $n_x = n_z > n_y$ 、 $n_x = n_y > n_z$ などの屈折率特性を示す位相差フィルムの2種以上の組合せで用いた位相差板が提案されている（特許文献6）。

しかし、これらの手段によっても、どの方向から見ても均質で高いコントラストを有する液晶表示装置を得るにはまだ不十分で、さらなる改善が求められている。

【特許文献1】特開平11-305217号公報（第2-3頁）

【特許文献2】特開平4-305602号公報（第2頁）

【特許文献3】特開2002-148433号公報（第2頁）

【特許文献4】特開平2-256023号公報（第1-2頁）

【特許文献5】特開平3-206422号公報（第1-2頁）

【特許文献6】特開2000-227520号公報（第2頁）

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

本発明は、正面方向からの画像特性を低下させることなく、画面を斜め方向から見たときのコントラストの低下を防止し、視野角が広く、どの方向から見ても均質で高いコントラストが得られる液晶表示装置を提供することを目的としてなされたものである。

【課題を解決するための手段】

【0004】

本発明者らは、上記の課題を解決すべく鋭意研究を重ねた結果、固有複屈折値が負である光学異方体層を、液晶セル及び偏光子に対して特定の位置関係に配置することにより、コントラストの低下を防止して、視野角が広く、高いコントラストを有する液晶表示装置が得られることを見だし、この知見に基づいて本発明を完成するに至った。

すなわち、本発明は、

(1) それぞれの透過軸がたがい略垂直の位置関係にある一対の偏光子の間に、少なくとも光学異方体及び液晶セルを有する液晶表示装置であって、光学異方体が固有複屈折値が負である材料層からなり、光学異方体の面内の遅相軸が近接する偏光子の透過軸と略平行又は略垂直の位置関係にあることを特徴とする液晶表示装置、

(2) 波長550nmの光で測定した光学異方体の面内の遅相軸方向の屈折率を $n_x$ 、該遅相軸と面内で直交する方向の屈折率を $n_y$ 、厚さ方向の屈折率を $n_z$ としたとき、 $n_z > n_x > n_y$ である(1)記載の液晶表示装置、

(3) 光学異方体が、液晶セルと入射側偏光子との間に配置されてなる(1)又は(2)に記載の液晶表示装置、

(4) 光学異方体の面内の遅相軸が、電圧無印加状態の液晶セルの面内の遅相軸と略垂直の位置関係にある(1)～(3)のいずれか1項に記載の液晶表示装置、

(5) 光学異方体が、層の少なくとも片面に透明な樹脂を積層してなる(1)～(4)のいずれか1項に記載の液晶表示装置、

(6) 透明な樹脂が、脂環式構造を有する重合体樹脂である(5)記載の液晶表示装置、

(7) 光学異方体の残留揮発成分含有量が、0.1重量%以下である(1)～(6)のいずれか1項に記載の液晶表示装置、及び、

(8) 液晶表示装置が、インプレーンスイッチングモードの液晶表示装置である(1)～(7)のいずれか1項に記載の液晶表示装置、

を提供するものである。

さらに、本発明の好ましい態様として、

(9) 固有複屈折値が負である材料が、ビニル芳香族系重合体である(1)～(8)のいずれ

か1項に記載の液晶表示装置、及び、

(10) ビニル芳香族系重合体が、ポリスチレン又はスチレンと無水マレイン酸の共重合体である(9)記載の液晶表示装置、  
を挙げることができる。

#### 【発明の効果】

##### 【0005】

本発明の液晶表示装置は、視野角が広く、どの方向から見ても均質で高いコントラストを有するので、大画面のフラットパネルディスプレイなどとして、好適に用いることができる。

#### 【発明を実施するための最良の形態】

##### 【0006】

本発明の液晶表示装置は、それぞれの透過軸がたがい略垂直の位置関係にある一対の偏光子の間に、少なくとも光学異方体及び液晶セルを有する液晶表示装置であって、光学異方体が固有複屈折値が負である材料層からなり、光学異方体の面内の遅相軸が近接する偏光子の透過軸と略平行又は略垂直の位置関係にある液晶表示装置である。

本発明において、二つの軸がなす角度とは、二つの軸、それぞれを法線とする面どうしのなす角度をいう。ただし、なす角度は小さいほうとする。本発明において、二つの軸が略平行な位置関係にあるとは、二つの軸がなす角度が $0 \sim 3^\circ$ であることを意味する。本発明において、二つの軸が略垂直な位置関係にあるとは、二つの軸がなす角度が $87 \sim 90^\circ$ であることを意味する。

##### 【0007】

固有複屈折値  $\Delta n^0$  は、式 [1] により算出される値である。

$$\Delta n^0 = (2\pi/9)(Nd/M)\{(n_a+2)^2/n_a\}(\alpha_1-\alpha_2) \cdots [1]$$

ただし、 $\pi$  は円周率、 $N$  はアボガドロ数、 $d$  は密度、 $M$  は分子量、 $n_a$  は平均屈折率、 $\alpha_1$  は高分子の分子鎖軸方向の分極率、 $\alpha_2$  は高分子の分子鎖軸と垂直な方向の分極率である。

固有複屈折値が負である材料としては、ディスコチック液晶、ディスコチック液晶ポリマー、ビニル芳香族系重合体、ポリアクリロニトリル系重合体、ポリメチルメタクリレート系重合体、セルロースエステル系重合体、これらの多元共重合体などを挙げることができる。これらの固有複屈折値が負である材料は、1種を単独で用いることができ、あるいは、2種以上を組み合わせ用いることもできる。これらの中で、ビニル芳香族系重合体、ポリアクリロニトリル系重合体及びポリメチルメタクリレート系重合体を好適に用いることができ、ビニル芳香族系重合体は、複屈折発現性が高いので特に好適に用いることができる。

ビニル芳香族系重合体としては、例えば、ポリスチレン、スチレン、 $\alpha$ -メチルスチレン、 $o$ -メチルスチレン、 $m$ -メチルスチレン、 $p$ -メチルスチレン、 $p$ -クロロスチレン、 $p$ -ニトロスチレン、 $p$ -アミノスチレン、 $p$ -カルボキシスチレン、 $p$ -フェニルスチレン、 $p$ -メトキシスチレン、 $p$ - $t$ -ブトキシスチレンなどと、エチレン、プロピレン、ブテン、ブタジエン、イソプレン、(メタ)アクリロニトリル、 $\alpha$ -クロロアクリロニトリル、(メタ)アクリル酸メチル、(メタ)アクリル酸エチル、(メタ)アクリル酸、無水マレイン酸、マレイミド、酢酸ビニル、塩化ビニルなどとの共重合体などを挙げることができる。これらの中で、ポリスチレン及びスチレンと無水マレイン酸の共重合体を好適に用いることができる。

##### 【0008】

本発明の液晶表示装置において、波長 550 nm の光で測定した光学異方体の面内の遅相軸方向の屈折率を  $n_x$ 、該遅相軸と面内で直交する方向の屈折率を  $n_y$ 、厚さ方向の屈折率を  $n_z$  としたとき、 $n_z > n_x > n_y$  であることが好ましい。 $n_z \leq n_x$  又は  $n_z \leq n_y$  であると、コントラストが低下するおそれがある。なお、コントラスト (CR) とは、液晶表示装置の OFF 表示時の輝度を  $Y_{OFF}$ 、ON 表示時の輝度を  $Y_{ON}$  としたとき、 $CR = Y_{ON}/Y_{OFF}$  で表される値である。コントラストが大きいほど、視

認性が良好である。

本発明において、極角とは、液晶表示画面を観察する際に、正面方向から傾けてみたときの角度をいう。

本発明において、 $n_z > n_x > n_y$ である材料層の形成方法に特に制限はなく、例えば、固有複屈折値が負である材料の両側に、接着性樹脂層を介して後述する他の材料を積層した多層構造体を共押出などにより成形し、得られた多層構造体を一軸延伸又は二軸延伸し、さらに必要に応じて熱処理をすることによって得ることができる。他の材料が固有複屈折値が正である材料であっても、多層構造体全体として固有複屈折値が負であれば、固有複屈折値が負である材料層として用いることができる。強度が低く単独では延伸が困難な固有複屈折値が負である材料であっても、その両側にガラス転移温度の低い他の材料を積層した多層構造体とすることにより、延伸が可能となり、複屈折が発現しやすい温度で、破断することなく、生産性よく、 $n_z > n_x > n_y$ である固有複屈折値が負である材料層を形成することができる。

#### 【0009】

本発明の液晶表示装置においては、光学異方体が、固有複屈折値が負である材料と積層する構成の場合は、積層する他の材料としては特に制限されないが、層の少なくとも片面に透明な樹脂を積層してなることが好ましい。光学異方体の層に透明な樹脂層を積層することにより、光学異方体の破断を防いだり、光学異方体の波長分散性を容易に制御することが可能となる。透明な樹脂としては、1mm厚で全光線透過率が80%以上の樹脂を制限なく使用することができる。このような透明な樹脂としては、例えば、脂環式構造を有する重合体樹脂、ポリエチレンやポリプロピレンなどの鎖状オレフィン系重合体、ポリカーボネート系重合体、ポリエステル系重合体、ポリスルホン系重合体、ポリエーテルスルホン系重合体、ポリスチレン系重合体、ポリビニルアルコール系重合体、ポリメタクリレート系重合体などを挙げることができる。これらの中で、脂環式構造を有する重合体樹脂及び鎖状オレフィン系重合体を好適に用いることができ、脂環式構造を有する重合体樹脂は、透明性、低吸湿性、寸法安定性、軽量性などに優れるので、特に好適に用いることができる。光学異方体に透明な樹脂を積層することにより、光学異方体を延伸する際の破断を防ぎ、安定して $n_z > n_x > n_y$ である光学異方体を得ることができる。

本発明において、固有複屈折値が負である材料又は透明な樹脂には、必要に応じて、酸化防止剤、熱安定剤、光安定剤、紫外線吸収剤、帯電防止剤、分散剤、塩素捕捉剤、難燃剤、結晶化核剤、ブロッキング防止剤、防曇剤、離型剤、顔料、有機又は無機の充填材、中和剤、滑剤、分解剤、金属不活性化剤、汚染防止剤、抗菌剤やその他の樹脂、熱可塑性エラストマーなどの公知の添加剤を発明の効果が損なわれない範囲で添加することができる。

本発明の液晶表示装置においては、光学異方体の残留揮発成分含有量が0.1重量%以下であることが好ましく、0.01重量%以下であることがより好ましい。光学異方体の残留揮発成分含有量が0.1重量%を超えると、使用時に揮発性成分が外部に揮散して、光学異方体に寸法変化が生じ、内部応力が発生することにより、位相差にムラを生ずるおそれがある。光学異方体の揮発性成分含有量を0.1重量%以下、より好ましくは0.01重量%以下とすることにより、長期間使用しても画面に表示ムラが発生しない光学特性の安定性に優れた液晶表示装置を得ることができる。

本発明において、揮発性成分は、光学異方体に微量含まれる分子量200以下の物質であり、例えば、残留単量体や溶媒などが挙げられる。揮発性成分の含有量は、光学異方体に含まれる分子量200以下の物質の合計として、光学異方体をガスクロマトグラフィーにより分析することにより定量することができる。

#### 【0010】

本発明の液晶表示装置においては、光学異方体の面内の遅相軸が、近接する偏光子の透過軸と略平行又は略垂直の位置関係にある。また、光学異方体が、液晶セルと入射側偏光子との間に配置されてなることが好ましく、光学異方体の面内の遅相軸が、電圧無印加状態の液晶セルの面内の遅相軸とほぼ垂直の位置関係にあることが好ましい。光学異方体、

液晶セル及び2枚の偏光子がこの位置関係をとることにより、極角 $0 \sim 80^\circ$ 、全方位角において、コントラストの最小値を30以上とすることができる。

図1は、本発明の液晶表示装置の一態様の説明図である。本態様においては、入射側偏光子1、光学異方体3、液晶セル2、出射側偏光子4が、この順に積層されている。図中の矢印は、偏光子については透過軸を、液晶セルについては電圧無印加状態の面内の遅相軸を、光学異方体については面内の遅相軸を表す。すなわち、光学異方体の面内の遅相軸が、光学異方体と接する入射側偏光子の透過軸と平行の位置関係にあり、電圧無印加状態の液晶セルの面内の遅相軸と垂直の位置関係にある。

図2は、本発明の液晶表示装置の他の態様の説明図である。本態様においては、入射側偏光子1、光学異方体3、液晶セル2、出射側偏光子4が、この順に積層されている。図中の矢印は、偏光子については透過軸を、液晶セルについては電圧無印加状態の面内の遅相軸を、光学異方体については面内の遅相軸を表す。すなわち、光学異方体の面内の遅相軸が、光学異方体と接する入射側偏光子の透過軸と垂直の位置関係にあり、電圧無印加状態の液晶セルの面内の遅相軸と平行の位置関係にある。

本発明において、光学異方体の面内レターデーション $R_e$  (単位nm) と厚さ方向レターデーション $R_{th}$  (単位nm) の組み合わせは、 $100 \leq R_e \leq 400$  及び  $-500 \leq R_{th} \leq -60$  であることが好ましく、 $160 \leq R_e \leq 340$  及び  $-350 \leq R_{th} \leq -150$  であることがより好ましく、 $200 \leq R_e \leq 260$  及び  $-305 \leq R_{th} \leq -205$  であることがさらに好ましく、 $210 \leq R_e \leq 250$  及び  $-275 \leq R_{th} \leq -235$  が最も好ましい。

本発明において、面内レターデーション $R_e$ 、厚さ方向レターデーション $R_{th}$ は以下の式(1)、(2)で求められる。なお、式中 $n_x$ 、 $n_y$ 及び $n_z$ は屈折率(－)、 $d$ は厚さ(nm)を表す。

$$\text{式(1)}: R_e = (n_x - n_y) \times d$$

$$\text{式(2)}: R_{th} = [(n_x + n_y) / 2 - n_z] \times d$$

#### 【0011】

本発明の液晶表示装置のモードに特に制限はなく、例えば、インプレーンスイッチング(IPS)モード、バーチカルアラインメント(VA)モード、マルチドメインバーチカルアラインメント(MVA)モード、コンティニューアスピンホイールアラインメント(CPA)モード、ハイブリッドアラインメントネマチック(HAN)モード、ツイステッドネマチック(TN)モード、スーパーツイステッドネマチック(STN)モード、オプティカルコンペンセイテッドベンド(OCB)モードなどを挙げることができる。これらの中で、インプレーンスイッチングモードに特に好適に適用することができる。

インプレーンスイッチングモードでは、水平方向にホモジニアスな配向をした液晶分子と、透過軸が画面正面に対して上下と左右の方向を指して垂直の位置関係にある2枚の偏光子を用いているので、上下左右の方向から画面を斜めに見るときには、2本の透過軸は直交して見える位置関係にあり、ホモジニアス配向液晶層はツイステッドモード液晶層で生ずるような複屈折も少ないことから、十分なコントラストが得られる。これに対して、方位角 $45^\circ$ の方向から画面を斜めに見るときには、2枚の偏光子の透過軸のなす角度が $90^\circ$ からずれる位置関係となるために、透過光が複屈折を生じて光が洩れ、十分な黒が得られず、コントラストが低下する。インプレーンスイッチングモードの液晶表示装置の2枚の偏光子の間に、固有複屈折値が負である光学異方体の層を配置することにより、透過光に生ずる複屈折を効果的に補償して光の洩れを防ぎ、全方位角において高いコントラストを得ることができる。

本発明において、使用する偏光子としては、ポリビニルアルコールや部分ホルマール化ポリビニルアルコール等の従来に準じた適宜なビニルアルコール系ポリマーよりなるフィルムに、ヨウ素や二色性染料等よりなる二色性物質による染色処理、延伸処理、架橋処理等の適宜な処理を適宜な順序や方式で施したもので、自然光を入射させると直線偏光を透過する適宜なものを用いることができる。特に、光透過率や偏光度に優れるものが好ましい。偏光子の厚さは、 $5 \sim 80 \mu\text{m}$ が一般的であるが、これに限定されない。

偏光子の片側又は両側には、偏光子の保護を目的として、適宜の接着層を介して偏光子保護フィルムが接着されていてもよい。

偏光子保護フィルムとしては、適宜な透明フィルムを用いることができる。中でも、透明性や機械的強度、熱安定性や水分遮蔽性等に優れるポリマーからなるフィルム等が好ましく用いられる。そのポリマーの例としては、トリアセチルセルロースの如きアセテート系樹脂やポリエステル系樹脂、ポリエーテルスルホン系樹脂、ポリカーボネート系樹脂、ポリアミド系樹脂、ポリイミド系樹脂、ポリオレフィン系樹脂、脂環式構造を有する重合体、アクリル系樹脂等があげられる。

本発明において、光学異方体と偏光子が接する構成となるので、光学異方体フィルムを偏光子の保護フィルムとして兼用することができる。光学異方体フィルムを偏光子の保護フィルムとして兼用することにより、保護フィルム一層を省いて液晶表示装置を薄型化するとともに、偏光子の耐久性を向上することができる。

本発明において、液晶表示装置の形成に際しては、例えばプリズムアレイシート、レンズアレイシート、光拡散板、バックライト、輝度向上フィルム等の適宜な部品を適宜な位置に1層又は2層以上配置することができる。

#### 【実施例】

##### 【0012】

以下に、実施例を挙げて本発明をさらに詳細に説明するが、本発明はこれらの実施例によりなんら限定されるものではない。

なお、実施例及び比較例において、偏光子として偏光板〔(株)サンリッツ、LLC2-9518〕を用いた。液晶セルとして、厚さ $2.74\mu\text{m}$ 、誘電異方性が正、波長 $550\text{nm}$ の複屈折率 $\Delta n = 0.09884$ 、プレチルト角 $0^\circ$ の液晶セルを用いた。

また、実施例及び比較例において、測定及び評価は下記の方法により行った。

##### (1) 厚さ

フィルムの断面を、光学顕微鏡で観察して測定する。積層体については、各層ごとに測定する。

##### (2) ガラス転移温度

JIS K 7121に基づいて、示差走査熱量分析法(DSC)により測定する。

(3) 屈折率( $n_x$ 、 $n_y$ 、 $n_z$ )、レターデーション(面内レターデーション、厚さ方向のレターデーション)及び面内の遅相軸のバラツキ

自動複屈折計〔王子計測機器(株)、KOBRA-21〕を用いて、波長 $550\text{nm}$ の光で測定する。なお、遅相軸のバラツキは、光学異方体の幅方向に $10\text{mm}$ 間隔で遅相軸を測定して、その測定値の算術平均値を求め、その平均値からの測定値のバラツキとする。

##### (4) 残留揮発性成分

光学異方体 $200\text{mg}$ を、表面に吸着していた水分や有機物を完全に除去した内径 $4\text{m}$ のガラスチューブの試料容器に入れる。次に、その容器を温度 $100^\circ\text{C}$ で $60$ 分間加熱し、容器から出てきた気体を連続的に捕集する。そして、捕集した気体を熱脱着ガスクロマトグラフィー質量分析計(TDS-GC-MS)で分析し、その中で分子量 $200$ 以下の成分の合計量を残留揮発性成分として測定する。

##### (5) 液晶表示装置の視野角特性

光学異方体を、インプレーンスイッチング(IPS)モードの液晶表示装置の液晶セルに隣接する位置に配置して、表示特性を目視により観察する。また、 $4\times 4$ マトリクスを用いた光学シミュレーションによりコントラストを計算し、コントラスト図として表示する。

##### 【0013】

#### 実施例1 (光学異方体フィルムの作製)

ノルボルネン系重合体〔日本ゼオン(株)、ゼオノア1020、ガラス転移温度 $105^\circ\text{C}$ 〕からなる〔1〕層、スチレン-無水マレイン酸共重合体〔ノヴァケミカルジャパン(株)、ダイラークD332、ガラス転移温度 $130^\circ\text{C}$ 、オリゴマー含有量3重量%〕からなる〔2〕層及び変性したエチレン-酢酸ビニル共重合体〔三菱化学(株)、モディックAP A5

43、ビカット軟化点 80℃] からなる[3]層を有し、[1]層 (15  $\mu\text{m}$ ) - [3]層 (5  $\mu\text{m}$ ) - [2]層 (110  $\mu\text{m}$ ) - [3]層 (5  $\mu\text{m}$ ) - [1]層 (15  $\mu\text{m}$ ) の構成の未延伸積層体を共押出成形により得た。未延伸積層体を、テンターにより延伸温度 136℃で第一段の横一軸延伸し、延伸フィルムを 90° 回転させて延伸温度 138℃で第二段の横一軸延伸の合計延伸倍率 1.5 倍の逐次延伸を行い、厚さ 100  $\mu\text{m}$  の光学異方体フィルムを得た。

得られた光学異方体フィルムは、屈折率  $n_x$  1.5823、 $n_y$  1.5800、 $n_z$  1.5837 であり、面内レターデーション  $R_e$  は 230 nm、厚さ方向レターデーション  $R_t$  は -255 nm であり、面内の遅相軸のばらつきは  $\pm 0.05^\circ$  であり、残留揮発成分含有量は 0.01 重量% 以下であった。

#### 【0014】

#### 実施例 2 (液晶表示装置の作製)

入射側偏光子の透過軸と光学異方体の面内の遅相軸とが平行、光学異方体の面内の遅相軸と液晶セルの電圧無印加時の遅相軸とが垂直、液晶セルの電圧無印加時の遅相軸と出射側偏光子の透過軸とが平行になるように、入射側偏光子、光学異方体フィルム、液晶セル及び出射側偏光子をこの順に積層して、図 1 に示す構成を有する液晶表示装置を組み立てた。

得られた液晶表示装置の表示特性を目視で評価すると、画面を正面から見た場合も、全方位から極角 80° 以内の斜め方向から見た場合も、表示は良好かつ均質であった。この液晶表示装置についてシミュレーションにより得られたコントラスト図を、図 3 に示す。

#### 比較例 1

入射側偏光子の透過軸と液晶セルの電圧無印加時の遅相軸とが平行、液晶セルの電圧無印加時の遅相軸と出射側偏光子の透過軸とが垂直になるように、入射側偏光子、液晶セル及び出射側偏光子をこの順に積層して、液晶表示装置を組み立てた。

得られた液晶表示装置の表示特性を目視で評価すると、画面を正面から見た場合は表示は良好であったが、方位角 45° の斜め方向から見た場合は、コントラストが低く、不良であった。この液晶表示装置についてシミュレーションにより得られたコントラスト図を、図 4 に示す。

#### 【産業上の利用可能性】

#### 【0015】

本発明の液晶表示装置は、正面方向からの画像特性を低下させることなく、画面を斜め方向から見たときのコントラストの低下が防止され、視野角が広く、どの方向から見ても均質で高いコントラストを有する。本発明の液晶表示装置は、インプレーンスイッチングモードの液晶表示装置に特に好適に適用することができる。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0016】

【図 1】 本発明の液晶表示装置の一態様の説明図である。

【図 2】 本発明の液晶表示装置の他の態様の説明図である。

【図 3】 実施例 2 で得られた液晶表示装置のコントラスト図である。

【図 4】 比較例 1 で得られた液晶表示装置のコントラスト図である。

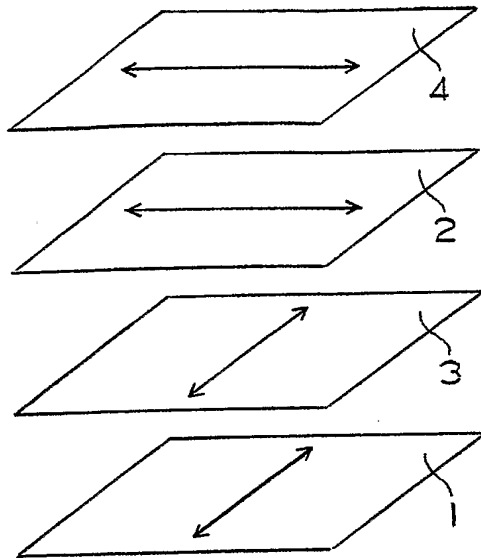
#### 【符号の説明】

#### 【0017】

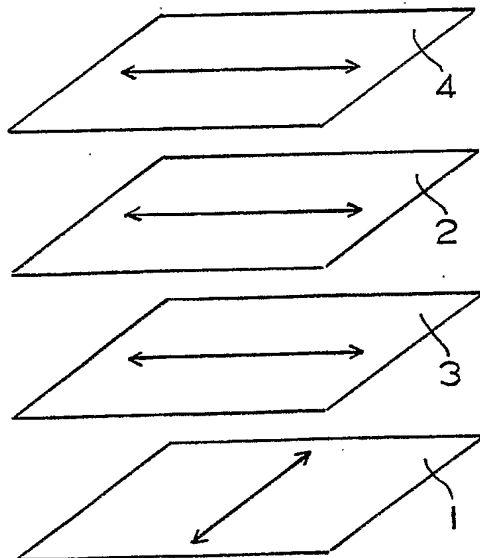
- 1 入射側偏光子
- 2 液晶セル
- 3 光学異方体
- 4 出射側偏光子

【書類名】図面

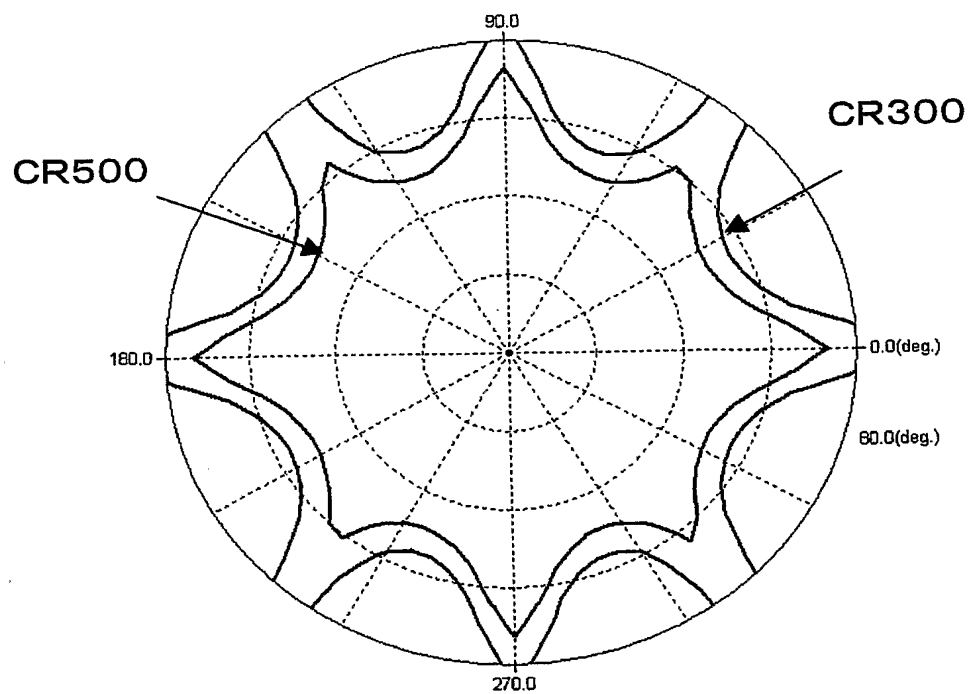
【図 1】



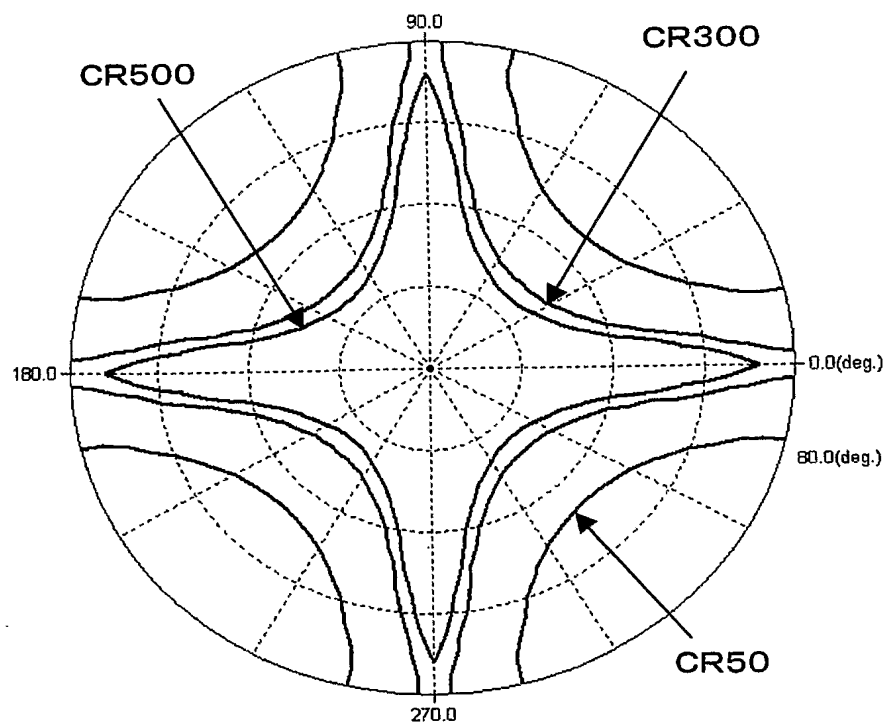
【図 2】



【図 3】



【図 4】



**【書類名】 要約書****【要約】**

**【課題】** 正面方向からの画像特性を低下させることなく、画面を斜め方向から見たときのコントラストの低下を防止し、視野角が広く、どの方向から見ても均質で高いコントラストが得られる液晶表示装置を提供する。

**【解決手段】** それぞれの透過軸がたがい略垂直の位置関係にある一対の偏光子の間に、少なくとも光学異方体及び液晶セルを有する液晶表示装置であって、光学異方体が固有複屈折値が負である材料層からなり、光学異方体の面内の遅相軸が近接する偏光子の透過軸と略平行又は略垂直の位置関係にあることを特徴とする液晶表示装置。

**【選択図】** 図 1

特願 2 0 0 3 - 3 9 3 0 1 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 2 2 9 1 1 7 ]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 2 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都千代田区丸の内 2 丁目 6 番 1 号

氏 名

日本ゼオン株式会社